

安全に脱衣可能な防護服の開発

デザイン技術グループ 加藤 貴司
TEL 03-5530-2180

特徴

汚染面を内側に包みながら脱衣可能な防護服を開発しました。左右の張力で開くトップオープンファスナを用い背面の開口部から着脱が可能です。これにより、作業後の汚染面である前面を触れることなく脱衣が可能です。



図1：飛沫防止のため汚染面を内側に包みながらの脱衣

表1：脱衣時間（秒）と標準偏差（n=6）

	既製品	開発品 トップオープン ファスナ
平均秒数（sec）	28.0	23.6
標準偏差（sec）	5.09	1.66



図2：開発品防護服の脱衣

従来技術に比べての優位性

- 前開きの防護服では前面の汚染面を触れることなく脱衣するのが困難であったが開発品では汚染面を包みながらの安全に脱衣が可能です
- 既製品脱衣の汚染区域接触回数が平均で6回、開発品では平均で0回という結果が得られました

今後の展開

- 防災製品への応用
- 医療品分野への展開

研究成果に関する文献・資料

- 都産技研研究報告，第5号，P.126（2010）
- 都産技研研究報告，第6号，P.132（2011）
- 繊維加工技術の歩み，第49回全国繊維技術交流プラザ，P.9（2011）

研究員からのひとこと

この技術で安全に脱衣が可能です。
ウェアラブル製品や衣類の着脱性に興味のある企業様との共同研究・事業化をできればと考えています。